

# 第1学年 音楽科学習指導案

日時：平成28年7月7日（木）6校時

場所：第2音楽室

学級：1年C組（男子20名 女子12名 合計32名）

指導者：角掛 友喜

- 1 題材名 声部の役割や全体の響きを感じ取り、思いや意図をもって、表現を工夫しながら合わせて歌おう。  
(教材名「パフ」「旅立ちの時～Asian Dream Song～」)

## 2 題材について

### (1) 教材観

本題材は、学習指導要領〔第1学年〕の内容よりA表現（1）歌唱の事項ウ「声部の役割や全体の響きを感じ取り、表現を工夫しながら合わせて歌うこと。」に関連する内容である。〔共通事項〕のうち音色、リズム、テクスチュアを扱う。本教材は、混声合唱の楽曲であり、へ音譜表の入った楽譜に取り組む。小学校からト音譜表で主に表記されてきた同声合唱を歌ってきている生徒たちには、初めての経験である。男声パートでは変声期と共に、歌う音域が低くなる。身体の成長に伴って、歌唱表現できる幅が広くなり、今までの同声合唱とは違う、混声合唱の響きを体感することのできる教材である。

「パフ」は、ト音譜表とへ音譜表のそれぞれの声部の音に同じ部分が多くあり、同じ階名でも音の高さが変わるというところに着目しやすい。また、同じ旋律が繰り返されるという曲の構成から、中学校になって初めて出てくるへ音譜表の階名に取り組みやすいという特徴がある。「旅立ちの時～Asian Dream Song～」は、違う高さの音をユニゾンで歌うことから曲がスタートするため、「パフ」で既習したお互いの声を聴き合いながら歌う学習を行うことができる。また、盛り上がりの部分では、3パートでハーモニーを作ることができ、混声合唱の魅力がつかみやすいという特徴がある。

### (2) 生徒観

本学級ではこれまで、歌唱分野では「We'll Find The Way～はるかな道へ」という、対位的な同声2部合唱を取り組んできた。また鑑賞領域では、「春―第1楽章―」を教材として、音色、旋律、リズムを感じ取る活動を行ってきた。今回のような、和声的な合唱を行うのは初めてである。生徒の実態としては、自分の感じたことを音や図や言葉を使って表現している様子がみられる一方、感じた事を、表現することに苦手を感じ、上手くできないことから自信を持たずに、全体に向かって表現することをためらう生徒もみられる。また、歌唱活動においては、歌うことを楽しんでいる生徒もいれば、自信が持てずに声を出すことを躊躇する生徒もいる状態である。

### (3) 指導観

混声合唱という本題材を通して、変声期への正しい理解や、男性の声が低くなったことで表現できる幅が広がったことを実感させたい。また、歌唱活動全般において、自分の声を仲間と共に響かせる喜びや、楽曲の特徴を捉えて創意工夫して歌唱表現していく力を身に付けさせたい。そのために、基本的な楽譜の読み取りを通して、音楽に対して自分の知識が深まっていく喜びを感じる経験をつませたい。また、ペアやグループで意見を出し合ったり、考えた事を仲間と共有していく経験を積むことで、自らの考えが深まり、表現の幅が広がっていくことを体感させるのがねらいである。

音楽科では、年間を通して研究主題と関わって、授業の2分前学習で、教科リーダーの声掛けのもとで合唱を行うという取り組みを行ってきた。これは、自分達で主体的に音楽に関わる態度を育てること、歌うことを習慣化するというねらいがある。また、毎時間記録を行っている「音楽のあゆみ」では、学習に対する生徒自身の振り返りを書かせている。このような積み重ねを通して、自己を振り返りながら、主体的に音楽に関わっていく姿勢を育てたいと考えている。

### 3 題材の目標と評価規準

#### (1) 題材の目標

- ①声部の役割や全体の響きに関心を持ち、合わせて歌う学習に主体的に取り組む。
- ②声の音色（男声、女声、混声）、テクスチャ（旋律やハーモニー）、を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じしながら、声部の役割や全体の響きを感じ取って音楽表現を工夫し、どのように合わせて歌うかについて思いや意図をもつ。
- ③声部の役割や全体の響きを生かした音楽表現をするために、自分達の声部の音色をまとめ、他の声部とのバランスを聴き合いながら歌う技能を身に付ける。

#### (2) 題材の評価規準

観点	観点1 音楽への関心・意欲・態度	観点2 音楽表現の創意工夫	観点3 音楽表現の技能
題材の評価規準	声部の役割や全体の響きに関心を持ち、合わせて歌う学習に主体的に取り組もうとしている。	声の音色、テクスチャ、を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、声部の役割や全体の響きを感じ取って音楽表現を工夫し、どのように合わせて歌うかについて思いや意図をもっている。	声部の役割や全体の響きを生かした音楽表現をするために、自分達の声部の音色をまとめ、他の声部とのバランスを聴き合いながら歌う技能を身に付けて歌っている。

### 4 題材の指導計画（総時数3時間）

- (1)「パフ」から混声合唱の特徴、変声期、へ音譜表の読み方について学ぶ。…1時間
- (2)ユニゾンやハーモニーを感じ取りながら工夫して歌う。…1時間（本時）
- (3)混声3部合唱の「旅立ちの時～Asian Dream Song～」で、混声3部合唱の響きを感じ取り、パートごとのまとまりをつくって歌う。…1時間

### 5 本時の指導

#### (1) 本時の目標と評価規準

本時の目標	評価規準	
	おおむね達成【観点】	未達成の場合の支援
声部の役割や全体の響きを考え、どのように表現するか思いや意図をもたせる。	①テクスチャと音色を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、声部の役割や全体の響きを感じ取って、どのように合わせて歌うかについて言葉を用いて表現できている。【音楽表現の創意工夫】 ②声部の役割や全体の響きに関心を持ち、合わせて歌う学習に主体的に取り組んでいる。【関心・意欲・態度】	①個別の声掛けを行うと共に、グループでの学習を取り入れ、仲間の言葉を参考にしながら考える機会をつくる。 ②「何をするのか」ということをより明確にしたり、お手本を示すことで、どう動くのかの見通しを持たせる。

#### (2) 授業の構想

別紙「授業の構想シート」参照

(3) 本時の展開

段階	学習内容	学習活動	教師の指導・支援 評価【観点】 ●UDの視点
10分	<p>(2分前学習)</p> <p>1 ウォーミングアップ</p> <p>2 課題設定</p> <p>・本時の見通し</p>	<p>(「We'll Find The Way～はるかな道へ」を一度歌う)</p> <p>・階名読みの復習をする</p> <p>・「パフ」の高音部・低音部を階名唱</p> <p>・2部合唱で歌ってみる</p> <p>・録音し、2部合唱の範唱と聴き比べる</p> <p>・本時の見通しをもつ</p> <p>①各パートの音程をとる</p> <p>②ハーモニーをつくる</p>	<p>(●スパイラル化</p> <p>・教科リーダー主導で行わせる)</p> <p>●スパイラル化</p> <p>・ト音譜表、ヘ音譜表の確認</p> <p>・録音を行う</p> <p>・ユニゾンをそろえる事、ハーモニーのバランスに目を向けさせる</p> <p>※扱う部分を楽曲の前半にしぼる</p>
<p>学習課題 : ユニゾン・ハーモニーに注目して、歌声をきれいに合わせるための方法を考えよう。</p>			
30分	<p>3 課題追究</p> <p>その① ＜パートの音程をとる＞</p> <p>その② ＜パートの音を溶け合わせる ～ユニゾン・ハーモニーをつくる～＞</p>	<p>1 階名唱で歌ってみる</p> <p>2 歌詞で歌ってみる</p> <p>1 前半部分を録音する</p> <p>2 録音を聴き、課題を見つける</p> <p>3 課題解決の方法を考え、発表する (例) 他パートを聴く、パートの音を合わせる、声を明るくする、等</p> <p>4 それぞれグループで意見を出し合いながら練習を行う</p> <p>5 全体でまとめの合唱を行う</p>	<p>●視覚化</p> <p>・前半部分の拡大楽譜を提示し、ユニゾンとハーモニーを視覚的に理解させる</p> <p>・ハンドサインで歌う回数を把握</p> <p>・音色、ハーモニーに着目し、学習プリントに記入させる：全体で発表させる</p> <p>・生徒の発表から、知覚と感受を結び付ける</p> <p>●共有化</p> <p>・グループで意見を出し合い、全体で共有させながら活動を行う</p> <p>①声部の役割を生かして、試行錯誤しながら、改善点を言葉を用いて表現することができる。</p> <p>【音楽表現の創意工夫】</p> <p>②声部の役割や全体の響きに関心をもち、合わせて歌う学習に主体的に取り組んでいる。</p> <p>【関心・意欲・態度】</p>
10分	<p>4 まとめ 「音楽のあゆみ」</p> <p>・次時への見通し</p>	<p>・歌声をきれいに合わせるために工夫した点を、個人で書く</p> <p>・全体で交流する</p> <p>・次時は、混声合唱曲である「旅立ちの時」に取り組んでいくことを確認する。</p>	<p>・工夫した点を全体で共有させる</p>
<p>お互いの声を聴き合い、自分たちのパートの音をそろえることで、きれいに合うようになった。</p>			

